

わんしょた音声作品

『クールできびしい、たまにちょっとやさしいお師匠さまと、森の庵で淫遁生活』脚本

06.おまけ：実験失敗・ふたり化お師匠さまにご奉仕

場所：魔女の庵・弟子の部屋

ひつ……？

きやあああああああああつ！？

あ……な……なんてこと……

この私が、こんな……

こんな、つまらないミスをしてしまうだなんて……

あ……あなた……そこにいたの？

//実はふたり化する特殊な媚薬を吸ってしまい、ムラムラきかけている

ええ、大丈夫よ……ケガをしたわけではないから。

ただ、ちょっとその……う、ううん、なんでもないの。

……え？ 何があったのかって？

ええ……っと。こんなこと、バカらしくて説明したくもないのだけれど……

……え？ 私がこんな失敗をするなんて珍しい？

失敗なんて誰にでもあるから、気にしないで……？

//主人公のせいでこうなったので（後述）、クールに怒りがこみあげてくる

ふ～～～ん……

それじゃ、どうしてこんなことになったのか教えてあげましょうか……？

先日、あなたがキノコに寄生された事件があったでしょ？

……ええ、そうよ。マイコニドの件。

あの時、胞子で変質した精液を保管しておいたから

今日はそれを使って、新しい媚薬でも作ろうと思っていたのだけれどね？

さすがに未知の材料で作った薬を、あなたで試すわけにはいかないから……

私自らが実験台になることにしたの。

我なら魔法を使って、どんな危険な副作用であってもキャンセルできるから。

.....ねえ？ 弟子思いの、とおつても優しい『お師匠様』よねえ？

.....と・こ・ろ・が。

調合するのに使った薬草.....それが計算外だったのよねえ。

見た目はそのあたりに生えている、何の変哲もないハーブなのだけれど.....
実はそれが、あらゆる素材の効果を変容させる魔法の薬草だったの。

.....もうわかるわよねえ？

それを摘んできたのが、あ・な・た.....と、いうこと。

まったく.....何度言われても、そそつかしいところは未だに直らないのだから。
ただでさえ役に立たないのに、唯一のとりえである薬草摘みすら
満足にできないなんて、どういうことなのかしら？

.....ともかく。

想定していた媚薬は、見たこともない秘薬に変わってしまい、
それを服用した私に予想外の影響が出てしまった.....ということなの。

.....え？ まあ、そうね.....

いくら私の身体が、幾重もの魔法で護られているとは言っても、
まったく未知の原料を使った.....
それが変容した秘薬の効果までは想定していなかったわ。

.....ん？ そう？ 見た目に変化はないかしら？
これでもかなり.....無理をしているのだけど.....

くすっ.....それに、一か所だけ
とても見た目が変わっているところがあるのよ？
.....どこだか知りたい？

.....そうね、あなたには見届ける義務があるわ。
あなたが薬草を間違えて持ってきたせいで、
私のココ.....こんな風になってしまったの.....

.....じゃ～ん。コレ.....わかるわよね？
見事なまでにそそり立って、バキバキになった.....ペニスよ。
オチンチン.....と言った方が、あなたにはわかりやすいかしら？

//年月=としつき

はあ.....はあ.....んくつ.....

ま、まさか自分の身体にこんなものが生えるとはね……
私ももう数えられないくらいの年月を魔女として過ごしてきたけれど
こんな失敗は初めてだわ……

コレ、すごいのね……
風が触れただけでもピクピクと反応して……はあつ……
私の意思にかかわらず、性欲を搔き立てて……っ、くるの……

太い血管が浮いていて……ズル剥けた亀頭がパンパンに張って……
あなたの小さなモノより、かなり立派かもね？ くすっ……♡

……驚いた？ さすがの私も驚きの声を抑えられなかつたわ……
ええ……さっき聞いたわよね？

だから言いたくなかったのよ。
こんなマヌケな理由で、こんなマヌケな事態になってしまったのだから……

……？ そうね。早くなんとかしなくちゃって……私もそう思うわ。

……で、モノは相談なんだけど……

あなた、薬草を間違えて摘んできた責任を取りなさい？

どうやってって……決まっているでしょ？
このあふれんばかりの性欲を、あなたが処理するの。

やり方はわかっているわよねえ？
毎日のように、私があなたにしてあげていることなのだから。

ん～……？ 性別なんて関係ないわ。
この場にはあなたと私しかいないわけだし、
誰に見られるというものでもないでしょう？

……何よりも、あなたには責任があるのよ？

……まさか、『師匠』であるこの私に
一人でセンズリこけ……だなんて言うつもりはないわよねえ？

……ふふっ、そうそう。素直な子は好きよ？

心配はいらないわ……ひとまずこの性欲を解消してしまえば、
あとは落ち着いて、状態変化を解く方法を調べるだけだから。

ふう……ふう……だからあなたは大人しく……
この醜いオチンチンを鎮めることだけ考えなさい？

んくっ……そ、そうそう……私の前に跪いて……？

こんな大きなペニスを見るのは初めてかしら？
……って、当然よね。

//この辺り若干キャラを崩して、不安げにクールかわいい感じに
……んあつ♡♡♡
こ、こらっ！ まだ触れてなんて言っていないでしよう？
そ、それに少し……痛いわ……？
いくら大きいと言っても、こんなモノが生えたのも、触れられるのも……初めてだし……

//また少し冷徹さを取り戻し、クールな上から目線に
～～～～～……つ。
いいから、痛くない方法でやりなさい？

……？ 方法は……私がしてあげたことがあったでしょう？
ほら……口を開きなさい。

おっ……おおおおおおお……つ♡♡♡

はあつ……♡ はあつ……♡
こ、これ……なかなかのもの……ね……
腰が抜けそうになって……い、一気に吸い取られそうになったわ……

……？ あ、ご、ごめんなさいね？
あなたも、息を止めることなんかないから……

く、くわえられただけでこんなにすごいのだから、
動かされたらどうなってしまうのかしら……

んおつ……♡ おつ……♡ ほ……おおつ……♡
そ、そこ……先っぽに、舌が当たって……

ひぐっ……♡ はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……♡
む、剥けた鈴口……は、入ってきそうで……
んんんんんんつ♡♡♡ う、裏スジ、いいっ……

あつは……は……おつ……ほ……んおつ……おつ……♡
はあ……はあ……はあ……はあ……んあ……はあ……お、おお……♡

す、すごっ……オチンチン、フェラチオされるの……
あなた、いつも私に、こんなこと、させていたの……？
お……おつ……♡ ふう……♡ ふう……♡ ふぐうつ……♡

ふ、ふふっ……薬で生やした、偽物のチンポなのに……
弟子におクチでされて、こんなに気持ちいいだなんて……あ……あつ……♡
あ、あなたが夢中になってしまうのも、わ、わからなくは、ないわ……

はあ一……♡ はあ一……♡ はあ一……♡ はあ一……♡

ん、んもう……何をしているの？
もっと刺激をくわえなさい……
自分では動けないの？ 息ができなくて苦しい？

そう……なら、少しガマンしてね？

おつ♡ おつ……♡ んおおおおおつ♡♡♡

じ、自分で動くの、すごいっ……
ただ舐められてるのとは、ぜんぜん違うっ……♡
おつ♡ おつ♡ おつ♡

ふう……ふう……つ♡ つ♡ くつ♡
…………？
あ、ああ、そうよね、こんなにされたら苦しいわよね……？

でも……ごめんなさいっ……♡
まだガマンしてて……あああああつ……♡
コレ、押し返そうとしてくる舌、当たって……
コレ、だめっ……む、夢中になっちゃう♡♡♡

はあ♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡ はあ♡
……んおおおつ♡ おおつ♡ ほおつ♡
おつ♡ おつ♡ おつ♡ おつ♡ おつ♡

き、きもちいいっ……きもちいいわよ、あなたのオクチおまんこ……♡
失敗ばかりの薬草摘みよりも、こちらのほうがよっぽど……
おおおおつ♡ さ、才能があるんじゃないかしら？

あつ……♡ すごっ……出るっ……♡
に、偽物だけど、本当にザーメン出してしまいそう♡

ご……ごっ……ごめんなさいね？

少し乱暴になってしまうかもしれないけど……おつ♡
あなたの喉、もっと奥の方まで……借りるわね？
あつ……あつ……♡

んおつ♡ ほつ♡ おほおおおおつ♡♡♡
やつ……あつ、あつ♡♡♡
おクチ、すごいっ……ふたなりチンポ、すごいっ♡♡♡

ほら、もっと舌を絡めて？
いつも私にしてもらっているみたいに……
んああああああつ♡♡♡ そ、そうつ♡
カリも裏スジも、もっと吸い付くみたいに♡♡♡

はあ——♡ はあ——♡ はあ——♡ はあ——♡
ほつ……お……おつ……おつ♡ クる……クル、キちゃうつ……♡
ふたチンポから、ザーメン発射しちゃう♡

おつ♡ おつ♡ イク……イクッ……♡
出すわよ？ 出すから、その小さな喉まんこで……
ぜ、ぜんぶ、受け止めなさい？

は♡ は♡ は♡ は♡ は♡ はつ♡
はお……おつ♡ おつ♡ おつ♡ おつ♡ おつ♡
んお♡ おつ……♡ んお……つ♡♡♡

//絶頂
んおおおおおおおおつ♡♡♡
いぐつ……ううつ……うう～～～～～～～つ♡♡♡♡♡

//しばらくイキ続けて痙攣を繰り返すイメージで
はあああ……♡ はあああつ……♡ あ……♡ あ……♡ あ……♡
イグつ……♡ イッてる……♡ チンポ、ホントに……♡
あああつ……吸い取られて……♡ んおつ♡ おつ♡ ほおおおお……つ♡

//徐々に波が去っていくよう……
はあ～～～……♡ はあ～～～……♡ はあ～～～……♡ はあ～～～……♡
はあ……♡ はあ……♡ はあ……♡
ふう……ふう……んん……ふう……ふう……ふう……♡

//最後、かすかな余韻
ふつ……ふつ……ふつ……ふ…………

//若干冷静を取り戻す

.....あ。
ごめんなさい、いつまでもおクチに入れたままで。
すぐ抜くから.....んんっ♡

.....あ♡ あれだけ出したのに、まだこんなに.....
我ながら絶倫ね.....まあ、その代わりかなり早漏だったけど.....
初めてだからかしらね？ もうあなたのことを笑えないかも.....

.....あら？

くすっ.....酸素が足りなくてぐったりしているかと思ったけど.....
それは何？ ズボンにテントを張って.....勃起しているのかしら？

男の子なのに.....喉の奥までちんぽで犯されていたのに。
興奮しているなんて.....あなた、ひょっとしてヘンタイ？

ふふ.....冗談よ。
でも、今度はあなたのソコが苦しそうね？

私もそうなの.....クスッ♡
上のおクチで満足できなかったのだから、今度は下のおクチで試させてくれる？
ねえ.....？

あなたの大好きな、内側から精液を押し出すやり方で
今度はその小さなオチンポもスッキリさせてあげる.....

嬉しいでしょう？ 大好きな『師匠』の役に立てるのは.....あは♡
あなたって本当に.....かわいくて、最高の弟子だわ♡

//END